

令和6年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の 目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	○「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実を実現する授業実践と、授業改善を行う。 ○児童・生徒一人ひとりのニーズにあわせた教育を行う。 ○カリキュラムマネジメントの視点を踏まえ、教育課程の編成に取組む。	①「個別最適な学び」「協働的な学び」につながる授業づくりを推進する。 ②児童・生徒一人ひとりのニーズにあわせ、ICT機器を授業で活用し、授業内容を充実させる。	①授業づくりの視点を明確にして指導案を作成し、関係者で共有しながら授業改善を行う。 ②ICT機器の教員向け研修や相談体制を充実させ、実践的な活用を進める。	①「個別最適な学び」「協働的な学び」につながる授業の視点を明確にして授業改善に繋げることができたか。 ②児童・生徒一人ひとりのニーズを把握し、ICT機器を活用した授業を実践できたか。					
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	○児童・生徒に対し、きめ細やかな指導・支援の充実を図る。 ○教育活動全体で人権の視点に立った学校づくりに取組む。	①一人ひとりの障害の状況やニーズに応じた組織的な通学支援体制を構築する。 ②意見を言い合える風通しの良い職場環境を構築し、人権を尊重した指導や支援を行う。	①通学支援の校内体制を整備するとともに協力事業所との連携をさらに進める。 ②児童・生徒への配慮や手立てを日々確認するために、情報共有の方法を工夫する。	①自立と社会参加に向けた児童・生徒の通学支援体制を整備することができたか。 ②情報の共有が図られ、人権を尊重した指導や支援ができたか。					
3	進路指導・支援	○本人のニーズや適性に合った、自己選択・自己決定のための継続した指導・支援に取組む。 ○児童・生徒の自立と社会参加に向けた主体的な取組を支援する。	①専門職等と連携し児童・生徒一人ひとりのキャリア発達を支援する取組を進める。 ②いつでも・どこでも誰とでも活動できるような、児童・生徒支援を行う。	①義務教育段階から、自己選択・自己決定を意識した授業づくりを行う。 ②地域に出る活動や地域に貢献する活動を計画的に実施する。	①専門職等と連携し、子どもの自己選択・自己決定を進めることができたか。 ②地域に出る活動を通して、児童生徒が主体的に学ぶことができたか。					
4	地域等との協働	○学校と地域の双方で連携・協働するための組織的・継続的な仕組みを構築する。 ○地域における特別支援教育のセンター的機能としての取組を推進し、共生社会の実現に向け取り組む。	①学校運営協議会を通し地域と協働するしくみ作りを進める。 ②地域のニーズの把握と支援を的確に行い、地域の特別支援教育の専門性を高める。	①部会と共生社会推進チームが連携し地域とつながる活動を開拓する。 ②人的交流を進めながら、効果的なセンター的機能のあり方を検討する。	①学校と地域の双方で連携・協働した取組を進めることができたか。 ②小学校との人的交流を進めることにより、組織的な体制整備と人材育成ができたか。					
5	学校管理 学校運営	○地域と一体となった安全で安心な学校づくりに取り組む。 ○子どもたちと向き合う時間を確保し、教育の質を向上させるために、働き方改革を推進する。	①地域との繋がりを強化し、防災活動等を通して共生社会の推進に貢献する。 ②意識改革、業務のスリム化・効率化を図り、働きやすい職場環境を構築する。	①防災プロジェクト、共生社会推進チームを中心に地域と繋がる活動を進める。 ②会議の効率化、文書の簡素化、業務のスリム化を進め、ノー残業デーを徹底する。	①地域や企業と連携し、防災システムを構築するとともに、共生社会の推進に貢献できたか。 ②子どもたちと向き合う時間を確保するとともに、総労働時間を短縮することができたか。					

